

第2回千里浜海岸保全対策検討委員会 議事要旨

1. 日 時：平成 17 年 12 月 22 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場 所：県庁 1 1 階「1 1 0 1 会議室」
3. 出席者：石田委員、川村委員、玉井委員、中村委員、池本委員、
塚脇委員、本吉委員、中江委員
(天候不順による公共交通機関の乱れにより、中平委員、福濱委員は欠席)

4. 議題

- (1) 議事公開の可否について
- (2) 第1回検討委員会における議事要旨の確認
- (3) 千里浜海岸の保全と活用について
第1回検討委員会における課題
課題に対する検討
保全対策事例
千里浜海岸の評価
- (4) 各委員からの質疑・意見
- (5) 今後のスケジュールについて

5. 議事概要

- (1) 事務局から開催の挨拶が行われた。
- (2) 委員長から議事公開の確認が行われ、委員の了承を得た。
- (3) 事務局から第1回検討委員会における議事要旨の確認が行われた。
- (4) 事務局から「千里浜の保全と活用（第1回検討委員会における課題、課題に対する検討、保全対策事例、千里浜海岸の評価）」について説明が行われた。各委員からの主な意見・質問は次項以降のとおり。
- (5) 事務局から今後のスケジュールの説明が行われた。
- (6) 事務局から閉会の挨拶が行われた。

討議者	討議項目	小項目	内容
石田委員長	千里浜の形成史	砂丘分布および砂丘遺跡分布	日本海の形成のはじまりは、約 2000 万年前頃からである。 過去 2 万年間の海水準変動の中で、手取川扇状地を中心とした、千里浜海岸の形成に深くかかわる砂丘の形成は、縄文海進後の約 6000 年前頃からとの共通認識を持った。
玉井委員	最近の地形変化、海岸侵食	海底地形の特徴と変化	汀線沿いの海底バーの変化と汀線後退との関連性は把握できるのか。
石田委員長			バーの数は変化しないようだが、バーの形や大きさの変化は詳細にはわからない。
石田委員長		汀線変化	空中写真や汀線測量から千里浜海岸全体で汀線後退が進んでいる。
本吉委員			S30 年代は一の宮海岸は侵食していたが、離岸堤等の対策によって砂がついている。
玉井委員		潮位変動の特性	海面の平均潮位の上昇が大きな侵食要因であるとするならば、その影響も考える必要がある。
石田委員長			潮位が将来的に上がっていくのであれば、その影響はある。ただし、台風や低気圧による異常潮位もある。
塚脇委員			海面変動は当たり前であり、砂丘の形成における長期変動から、10cm 程度の平均潮位変動は誤差の範囲と考えられる。 空中写真による平成 4 年以降の千里浜の汀線後退は、この 10cm 程度の平均潮位変動で説明できる値ではなく、明らかに侵食と考えられる。
			小川オブザーバー

討議者	討議項目	小項目	内容
川村委員	底質特性		千里浜海岸は砂の粒径の細かさ(中央粒径で約 0.15mm)が際立っていることが特徴である。また、シルト分(0.074mm 以下)はほとんど見当たらない。 このような特徴が締め固め特性に大きく寄与していると考えられる。さらに、毛細管現象による最適含水比の維持が締め固めをさらに増大させ、支持力、地耐力を向上させる。ダイラタンシーについても、踏みつけることにより逆に負圧となり強度が増してくる。 非常にめずらしいので是非保全してもらいたい。
石田委員長			手取川などの砂が海流で北へ運ばれる段階で、滝崎付近で海流が弱まり、そこで砂が落ちるといった自然なふるい分け効果で千里浜に均一な細かい砂ばかりたまったと思われる。 重要な点はおかしな砂を持ってきて入れると車が走らなくなる危険性がある。
塚脇委員			それが沿岸沿いでは、逆に南向きに流されてよりふるい分け効果が高まっているのではないか。砂州は明らかに南に伸びている。
石田委員長			沿岸流は常に一方向に流れているわけではなく、波向きで決まる。過去に宝達川の砂利の流れを調べた時、砂利は南に向かっており、長期的には南に砂が流れていると考えられる。
中江委員			今浜南に位置する宝達川上流の石灰質成分が流れ出して、漆喰となり車が走りやすくなっていると昔から伝え聞いている。本当の所はどうなのか。
石田委員長			海水自体が粘っこいことが漆喰の役割をしていると考えられる。
池本委員	海岸環境	水質関連	沖合いの水質が徐々に悪化しているように見受けられる。 漂着ゴミ少し考えていかななくてはならない課題である。 流域の河川が海岸域へ影響を与えるため、流域を含めて海岸を保全していくことが重要である。
中村委員		海岸の生物相	沖合い浚渫土砂を養浜する場合の生物の影響については様々な要素があるため現時点では不明である。

討議者	討議項目	小項目	内容
玉井委員	保全対策の考え方		<p>砂浜の復元目標を設定する必要がある。</p> <p>侵食要因や予測も含めた仮説を立てた上で対策を検討していく必要がある。</p> <p>対策実施時にはモニタリングを行い、仮説と異なる場合には、対策を適宜修正していくことが望ましい。</p> <p>復元目標としてはS61or車3列程度のスケールに戻していくことが現実的と思われる。このスケールなら委員会で合意形成ができるのではないか。</p>
石田委員長			<p>復元目標を決定させる必要がある。</p> <p>陸上の浜を広くするセットバックの可能性</p> <p>離岸堤、人工リーフ等構造物の可能性</p> <p>養浜材の確保(砂丘の砂、沖合いの砂など)</p> <p>等が今後の課題である。</p>
玉井委員			<p>セットバックは個人的には賛成できない。</p> <p>昔に無かった状態を造るのは望ましくないと思う</p>
小間井オブザーバー			<p>土砂収支を検討し、千里浜海岸への土砂流入量や侵食量を推定することで、目標値を設定することも考えられる。</p>
川村委員			<p>まずは、技術専門部会で侵食要因や対策工法を詰めてもらってから再度委員会で議論した方が良い。</p>
池本委員	千里浜海岸の評価	美しくしたい海岸 トップ20	<p>美しくしたいというのは、現状が美しくないのではないかと。</p> <p>海岸侵食だけでなく、自然環境も考えて、復元目標を立てる必要がある。</p>
石田委員長	総括		<p>復元目標の設定に関しては全員一致であるが、目標値については、今後決定する。</p> <p>自然環境にも十分配慮した上で、対策工を考えていく必要がある。</p> <p>技術専門部会で、対策提案、それに対する専門的見地を検討した上で、部会の結果を再度委員会に諮る方向で委員の同意を得た。</p>